

あなたからのありがとうございます  
ありがとう

# 広報紙なごみ

岩手県花巻市東和町安俵6区97番地  
特定非営利活動法人ゆう・ゆう  
発行：グループホームなごみ・なごみⅡ  
電話 0198-43-1050  
FAX 0198-42-1753  
Email [nagomi@cup.ocn.ne.jp](mailto:nagomi@cup.ocn.ne.jp)  
URL <http://www.yuyu-nagomi.com>

203号 令和4年4月1日発行



なごみⅡのハイビスカス

菅原様と新田様が揃って弥生3月の誕生日を迎えました。春を迎えると共に生を受け二重の喜びだったろうと思います。

# なごみの暮らし



待ちきれず春を探しにお出かけ!もうバツケが顔を出していました。



名残雪にしては少し強烈な3月の雪でした。男性入居者の力を借りて雪かき作業。



茶碗拭き当番が回ってきました。やりたい人が沢山いてシフトを組むのが大変!(ナイショ)



お彼岸には皆さんでぼた餅を作ってお裾分け。「美味しいから食べてけれ」



卓上ボーリング。狭いながらも色々なことが楽しめるなごみホールです。



やあ!お出かけですか?

やっと雪も消えて気持ちも浮き立つような...



何でも早速な新田様。「エレキをやってよ」の要望に応じて「テケテケテ」



# なごみⅡの暮らし



ひな祭りには、それぞれが作った折り紙の色紙を手にしての記念撮影。やっと春らしい雰囲気になってきました。



3月11日にはテレビの中継で午後2時46分に皆さんで黙禱！あの日は寒かったことを覚えています。



お彼岸にはぼた餅作り。ところでぼた餅とおはぎの違いを知ってますか？実は同じなんだそう。



このゲームをみてあることを思い出しました。75歳以上の方しか知らないでしょうが、運転免許証の更新の際の認知症検査で16種類の絵を見せられて、後で書き上げるんですけどそんなの解るわけないでしょ。



## バランスツリー

これも結構難しい。バランス感覚がないとなかなか上手いきません。サト子様はバランス年齢40歳！



ひょうきんな伊藤ユキエ様。「昔は吹雪の時はこうやって回覧板を持って隣の家まで行ったもんだ。ハハハ」



几帳面な平野様。難しいパズルなんかもヘッチャラ。

# 避難訓練の実施について

福祉施設では、年2回の避難訓練が義務付けとなっております。そのうち1回は水害を想定した訓練を実施するよう指導を受けています。3月29日には火災(夜間)を想定した訓練を実施したところです。当ホームでは2名の災害協力員を委嘱して訓練の都度応援を頂いています。また隣接の産直あおぞら様とは相互支援協定を結んでいるところです。



避難訓練に併せて自家発電機の取扱い説明を受けました。

昨年高校を卒業してから、事前研修を含めグループホームなごみで働き始めてもう1年が経ちました。この1年は長いようで短く、沢山のことを覚え、考えた1年でした。

そのなかで、小さなミス積み重ねで自分に自信がなくなってしまうこともありました。そんな時、先輩職員の方に「いつも頑張っているね」と励まして頂いたり、入居者様が何も言わずに私の頭を撫でてくれた時、スーッと肩の荷がどこかに飛んでいくように思えました。

入居者様や先輩職員から何気ない声がけに助けられて、私は私の一歩で良いんだと、焦らずにここまで歩み続けることが出来ました。どうかこれからも末永くよろしくお願いいたします。  
なごみ介護員 藤井 史香

東日本大震災は今年で11年目を迎えました。あの日は高校の卒業式を終えて三日後の出来事でした。その時私は所属していた部活動の指導をしていました。立ってられないほどの揺れの中後輩達に「建物の側から離れて!」と声を掛けていたことを鮮明に覚えています。

11年経過した今でも、先日のような強い地震が幾度となく起こっています。日本は地震大国とも言われ、いつ大きな地震が起きてもおかしくない中にあります。今一度あの地震で経験したことを振り返り、いつどこで見舞われるか分からない災害に備えて行く必要があると思います。社会人となった今は自分のことだけでなく、入居者様を守るという義務もあるので。  
なごみⅡ介護員 多田 夏美

## 4月の主な行事

4月 1日 辞令交付

4月20日 GH運営推進会議

4月22日 第4・四半期会計監査



なごみの春



なごみⅡの春

## 窓辺から見える風景

夏目漱石の草枕の一節に次のような言葉があります。

**智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。**

**とかくに人の世は住みづらい。**

確かに、人間社会は日々人と関わらなければ生活出来ない宿命にあり、人の悩みも人間関係によるものが大半を占めることとなります。近所付き合いも職場の人間関係も例外ではありません。そこにはねたみやそねみがあり、ねざらぬ半分反目が半分。言葉には裏表があり、とかくに人の世は住みづらいと痛感します。

なごみでは9人の入居者様が衣食住を共に過ごしていますが、言わば9軒長屋の住人が隣り合わせに住んでいるようなものです。

従って気の合わない人もいれば仲の良い人もいます。決して一般社会と何ら変わるものではありません。9人がテーブルを囲んで様々な活動をする際も、その配置に注意をしなければトラブルに発展することがあります。

私たちの大きな役割のひとつにトラブルの未然防止と関係性を取り持つことがあります。人間は感情の動物と言われてはいますが、何歳になっても不快なことがあれば、やり場のない不満が尾を引くことになりかねません。それを早く察知して、気持ちを落ち着かせるための方策を講じることに知恵を働かせなければなりません。

検討会議では、どうすれば穏やかに過ごせるかを考えながら、テーブルの席替えを行ったり、悩みの相談相手になることもあります。外出する際の配車計画にも9人の入居者様の相性を考慮する必要があります。

これからは、団塊の世代(75歳前後の方々)が多く入居する時代がやって来ます。戦後生まれの年齢層は、戦前生まれの方々とは違って、自己主張が強いことが特徴です。趣味や価値観も多様になってきます。

従ってレクリエーションをするにしても、今までのように一律に同じことをやろうとしても同意しない方も現れてくるでしょう。私はこれをやりたいのだと主張する方も出て来るだろうと思います。

話題も豊富でなければ会話にも行き詰まることもあり得ます。これからはグループホームでお世話に当たる私たちも知識の吸収や教養の深さが求められてきます。

私たちは日々悩みながらも、これらに対応していく覚悟が必要になります。

なごみ統括 佐藤 俊一